

3 施設一体化整備における地域リハビリテーション推進センター，こころの健康増進センター，児童福祉センター及び発達障害者支援センターかがやきに係る課題とその解決策

(1) 4 施設共通

| 現状の課題 | 解決策 |
|--|---|
| 障害種別を超えた多様なニーズや複合的な課題への対応，ライフステージを通じた切れ目のない支援など，施設間の連携の必要性が高まっている。 | <ul style="list-style-type: none">・施設の枠を超え1階に相談部門，2階に診療部門を集約したほか，職員の主軸動線となる専用エリアであるスタッフコアを各階の中心に設けるなど，縦の連携はもとより，各施設間の横の連携も取りやすいよう設計 |
| 施設のバリアフリー機能や，利用者の特性に応じた各種の機能が不足している。 | <ul style="list-style-type: none">・大型の電動車椅子等も利用できる廊下幅を確保・雨の日でも濡れることなく施設利用ができるよう，エントランスに屋根付きの身障者用駐車スペースを設置・利用者の障害に応じた，多様な施設内表示を行うとともに，手すりの設置，段差の解消，滑りにくい床，引き戸などを設置・おむつ交換室，授乳室，バリアフリースイレを各所に配置 |
| 各施設ともに耐震基準を満たしていない。 | <ul style="list-style-type: none">・耐震基準を満たした設計 |
| 頻発する台風や大雨などに備え，災害に対応する機能を向上させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none">・自力避難が困難な利用者などのため各所に防火扉を設置・災害時にバルコニーを移動し屋外階段から避難が行えるよう，2階以上のフロアに全周バルコニーを設置。また，階段避難が困難な利用者のため，バルコニーに避難器具（動力を必要としないEVの様な避難器具）を設置・5階に一時避難スペースとしても活用できる屋上グラウンドを配置・停電時でも照明やOA機器のほか，一部区域の空調やEVが利用できるよう自家発電機を設置 |

(2) 地域リハビリテーション推進センター

| 現状の課題 | 解決策 |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 年々相談内容が複雑・多様化しており相談時間が長くなっている。 | ・相談室を2室から3室に拡充 |
| 入所施設は個室化のニーズがある。 | ・個室を設置 ※全体では個室4部屋，4人部屋4室配置 |

(3) こころの健康増進センター

| 現状の課題 | 解決策 |
|---|---|
| 現施設では、デイ・ケアプログラムを並行して実施する際に、大部屋をパーティション（衝立）で仕切ったり、他の空いている会議室を使用したりするなどして実施しているが、デイ・ケアプログラムのニーズに応じた効率的な運営など、更なる利便性を向上させる必要がある。 | ・より充実したプログラム運営ができるよう、調理室、デイルーム、ゼミナールルーム、運動室、グループ活動室を移動間仕切りで区画 |

(4) 児童福祉センター

| 現状の課題 | 解決策 |
|---|--|
| 発達検査及び発達診断のニーズが多い。 児童虐待に係る相談・通告の増加及びその内容が複雑・多様化している。 | ・発達検査を行う心理検査室を現在の6室から10室に拡充 ・小児科診察室を1室から2室に拡充 ・児童精神科診察室を6室から7室に拡充 ・診療所相談室を1室から2室に拡充 |
| 感染症が疑われる診療所受診の来所者は、空いている診察室で対応しているが、専用の待機室を設けるなど利便性を向上させる必要がある。 | ・感染者待機室1室を創設 |

(5) 発達障害者支援センターかがやき

| 現状の課題 | 解決策 |
|--|--|
| アセスメントプログラムを受けるまでの待機期間が発生している。 | ・共用部分の研修室や会議室を活用することにより居室を有効活用し、アセスメントを実施する指導室を1室から2室に拡充 |
| エレベーターがないため身体障害のある方が利用するための利便性が不足している。 | ・エレベーターを設置 ・諸室を1階に配置 |